



臺灣CT273蒸汽火車



日本SL冬季湿原號

日本蒸汽火車



「SL磐越物語號」山崎勉 拍

日本の蒸気機関車列車

第1部 日本各地を走るSL列車

文 峰雪剛(Mineyuki Tsuyoshi)
*臺日鐵道交流促進協會/釧路臨港鐵道之會

日本は台湾と同様、古くから鉄道の担う役割が大きく、国の物流大動脈から、生活の足まで、鉄道は多種多様に発達して来ました。とりわけ半世紀ほど前までは、蒸気機関車が鉄道の主役として長らく活躍して来ました。やがて時代が進むにつれて機関車は柴油や電力を用いた新型に置き換わり、日本国有鉄道(現在のJR)の蒸気機関車は1970年代に姿を消して行きました。この頃には日本は経済成長を遂げ、国民の生活が豊かになってきており、学生や若い世代を中心に蒸気機関車の引退を惜しみつつ、走る姿を写真や映画フィルムで撮影したり、走行音の録音、運転列車の記録等が流行して行きました。そんな風潮の中で役目を終えた蒸気機関車を解体せず、保存運転させるための運動も各地で起こり、日本国有鉄道は1979年に廃車になったC571(CT273同型)の機関車を動く事ができるように復活、観光列車「SLやまぐち号(山口號)」として運転を始めました。SL山口号は大変な人気を呼びながら運行を続け、日本国有鉄道がJR各社に分割民営化された後は、観光の目玉として各地で復活したSL列車が登場しています。地方私鉄でもSLを所有・運行する鉄道もあり、今や日本各地でSL列車が走るようになりました。3部構成の第1部では日本各地で活躍するSL列車を紹介、その中でもJR北海道・釧網本線を走る「SL冬季濕原號」の旅を通して日本のSL列車の世界を紹介します。



安倍野秋治 拍

日本で最初にSLの保存運転を始めたのは、静岡県の大井川鉄道(1976年保存運転開始)である。現在も数台のSLを所有し、観光客や鉄道愛好家の人気も高い。写真はThai国鉄で使用されていたC56型(現在は日本国鉄時代の塗装に戻された)

日本の蒸気機関車列車にとって大きな存在である「SL山口號」C571とC56180の2台の機関車が担当している。日本国有鉄道(現在のJR)が最初に行った本格的な蒸気機関車の観光列車であり、現在も高い人気を誇る。写真は2013年のSL山口號・聖誕節特別列車。



「SL磐越物語號」山崎勉 拍

日本的蒸汽火車

第1部 在日本奔馳的SL列車

作者：峰雪剛 (Mineyuki Tsuyoshi)
*臺日鐵道交流促進協會/釧路臨港鐵道之會

日本和台灣一樣，從以前就非常仰賴鐵路，從整個國家的物流輸送、到民生生活等，都是藉由鐵路而更加的發達，特別的是僅僅在半世紀之前，仍然是以蒸汽火車作為鐵路的主角。然而隨著時代的進步，蒸氣火車也被新型的柴油、電力機車取代了，日本國有鐵路公司(現在的JR)的蒸汽火車大約是從1970年後開始漸漸消失。

最近隨著日本的經濟成長、國民的生活變得更加豐盛，生和年輕人等族群對於蒸汽火車的退休感到惋惜，因而藉由拍照和攝影來記錄蒸汽火車奔馳中的身影以及聲音等漸漸的流行起來。在日本各地也漸漸地發起一股潮流，為了能夠保存退役的蒸汽火車並且讓它繼續的行駛，日本國有鐵道將1979年報廢的C571(CT273同型)的機車修復，並把它作為「SL山口號」旅遊列車來行駛。SL山口號的再度行駛引起民眾極大的迴響，日本國有鐵道自從被分割成民營的JR公司之後，以再度行駛的SL列車作為各地觀光的焦點。地方私營鐵路也都有SL列車及行駛的路線，現在的SL列車正在全日本各地行駛。

本文全部有3篇，第1篇將透過在北海道 釧網幹線行駛的「SL冬季濕原號」旅遊來向各位介紹在日本各地活躍的SL列車。



安倍野秋治 拍

在日本最初開始進行保存駕駛SL的是靜岡縣的大井川鐵道(1976年開始保存駕駛)。目前有好幾台的SL列車，非常受到觀光客和鐵道迷的喜好。照片是泰國國鐵使用的C56型(現在已經回到過去日本國鐵時代的塗裝了)

對日本的蒸汽機車列車而言，最出名的就是「SL山口號」C571和C56180這2台機車了。是日本國有鐵道(現在的JR)最初真正正在運行的蒸汽機車的觀光列車，到目前仍然是最受歡迎。照片是2013年的SL山口號聖誕節特別列車。

日本で活躍する主要なSL列車

今回紹介するのはほんの一部です。日本には多くのSL列車があり、地域性を活かした魅力的で多種多様なSL列車が日本各地を走っています。

JR北海道 釧網本線 釧路駅～標茶駅
C11 171号機 冬季(1月～3月)運転

SL 冬季濕原號

台鐵のCK124と姉妹列車である日本を代表するSL列車の1つ。冬の北海道を力強く走ることが特徴で、車窓からは雪の北海道の風景や数々の野生動物を見ることが出来る。客室内も石炭による暖房があるが、氷点下の風を体験できる展望室もある。



山崎勉 拍

SL 磐越物語號

JR東日本 磐越西線 新潟駅～会津若松駅
C57 170号機 春～秋(5月～11月)週末運転

新潟を起点にCT273同型のC57型が長距離を走る大人気のSL列車。米の産地、新潟平野から山に入り、鉄橋・トンネルで峠を越えて会津若松までの変化に富んだ車窓は年々人気を増している。2013年からは展望室付き商務車も連結された。



山崎勉 拍

PALEO EXPRESS

秩父鐵道 熊谷駅～三峰口駅
C58 363號機 通年の週末運転(検査時は運休)

熊谷を拠点とする秩父鐵道のSL観光列車。東京から近いこともあり、運転日は車内、駅、沿線と大変な賑わいを見せる。沿線は古くからの行楽地で、SLの旅を楽しんだ後にハイキングや船での川下りを楽しむ事もでき、人気の高い列車である。PALEOとは沿線付近で発掘された海獣化石に由来する。



山崎勉 拍

PALEO EXPRESS

秩父鐵道熊谷駅～三峰口駅
C58363號機 全年的週末行駛(検査時停開)

秩父鐵道のSL旅遊列車以熊谷作為據點。距離東京很近，每當行駛日時，無論是車内、車站或鐵道沿線都非常熱鬧。沿線都是風景相當優美的地方，也可以在SL的旅行之後健行郊遊欣賞風景或乘船遊玩下游一帶，是很受歡迎的列車。PALEO的由來是因為在沿線發現的海中生物的化石。



SL 真岡號

真岡鐵道 下館駅～真岡駅
C12 66號機 或 C11 325號機 通年の週末運転
(検査時は運休)

台鐵CK124と同型のC1266が活躍するSL列車。機関車前面は除煙板が無いためにCK124とは見た目の印象が違うのも興味深い。運転日が多く、首都圏からも近いため、運転日には車内・沿線ともに多くの人で賑わう。



山崎勉 拍

SL 真岡號

真岡鐵道 下館駅～真岡駅
C12 66號機或C11 325號機 全年的週末行駛
(検査時停開)

和台鐵CK124同型のC1266活躍のSL列車，與CK124不同的最大特徵是機車頭前面沒有除煙板的外觀是很有趣的。



山崎勉 拍

SL 山口號

JR西日本 山口線 新山口駅～津和野駅
C57 1号機 或 C56 160號機
春～秋(3月～11月)週末運転

日本を代表するSL列車。運転開始から35年経った現在でもその人気は衰える事は無い。CT273同型のC57はその優雅な容姿から「貴婦人」の愛称を持つ。1988年から客車が専用の「懷舊客車」となり、車両毎に時代の違う、昔の日本の列車の雰囲気を楽しめる。また、最後部には開放式の展望台が設置された。



安倍野秋治 拍

SL 山口號

Jr西日本 山口線 新山口駅～津和野駅
C57 1 號機 或 C56 160號機
春～秋(3月～11月)週末行駛

代表日本のSL列車，從開始行駛到現在已經過了35年仍然是極受大眾歡迎的。和CT273同型的C57有個優雅的「貴婦人」外號。從1988年開始就擔任「懷舊客車」的專屬列車，每輛車呈現不同的時代，可以享受回味舊日本時代的風味氣息。並且在車輛的最後方設置有開放式的展望台。



安倍野秋治 拍

SL 人吉

JR九州 肥薩線 熊本駅～人吉駅
58654號機
春～秋(3月～11月)週末運転

九州熊本縣の溪流に沿って走るSL列車。機関車の58654號機は日本のSL列車の中で最も古い1922年製造。美しい車窓を走る専用客車は日本最上級の高級列車「九州七星」を手掛けた水戸岡鋭治氏によるもの。3両編成ながら車内は楽しい演出で溢れ、美しい車窓だけでなく、列車に乗る楽しみも体験できる。



SL 人吉

Jr九州 肥薩線 熊本駅～人吉駅
58654號機
春～秋(3月～11月)週末行駛

沿著九州熊本縣的溪流行駛的SL列車。編號58654的機車是在1922年製造的，目前是日本年齡最大的SL列車。日本最高級的專用客運列車「九州七星」號，其特色是擁有由水戸岡鋭治先生親手製作美麗的車窗。雖然僅僅3節車廂編組，不僅能體驗美麗的車窗同時也能快樂的享受乘車的樂趣。





日本には多くのSL列車があります。その中でも台鐵とも関係が深いJR北海道の「SL冬季濕原號」は台湾の皆様も関心が高いと思います。釧路を起点に冬の北海道を力強く走る列車は、雪の漂々な釧路濕原の魅力を感じることが可能です。「是非乗ってみたい列車」、SL冬季濕原號の旅を通して日本のSL列車の世界をお楽しみ下さい。

SL冬季濕原號の生い立ち

北海道東部の釧路は古くからの港街。基隆や金瓜石で礦山事業を行っていた木村久太郎により釧路の海底煤礦が本格的に開發され、煤礦産地として有名になりました。SL冬季濕原號は煤礦の地をゆく煤礦の列車として、標茶町の公園に展示中だったC11171をJR北海道苗穂工廠で修理、2000年に運行を開始しました。



釧路站 第三月台
 午前11時、釧路站第三月台。SL冬季濕原號はここが始発駅です。機務段からの列車が到着すると、多くの乗客や、SLを一目見ようと観光客がC11の周辺に集まります。機関車では投煤などの出発準備を見る事ができ、多くの人が機関車と記念撮影をします。SLは札幌駅を朝7時前に出発した特急「超級大空號(新自強號相当)」の到着を待って出発するため、釧路の飯店に宿泊しなくても、SLに去回乗車してその日の夜に札幌に帰ることも可能です。

客車に乗り込み、釧路站開車！

SLの姿を見た後は客車に搭乗します。全車對號座・5両編成(4両の日もあります)の客席は普悠瑪號對坐桌型座椅のように4人掛けにテーブルが付きます。また編成中央には記念品や食べ物を販売する服務売店が、最後部には貨物列車の守車を改造した展望台があります。車内の暖炉は釧路産石炭を用いた物が置かれ、車両出入口にはCK124と姉妹締結を行った広告が貼られています。午前11時20分、列車は汽笛と共に出発します。



日本有許多的SL列車。其中與台鐵有著深厚關係的JR北海道「SL冬季濕原號」是台灣最關切的。在冬季的北海道以釧路為起點強有力地奔馳的列車，可以充分地體驗雪地風光及釧路濕地平原的魅力。「無論如何都想乘坐一次的列車」，藉由冬季濕原號的旅行來感受快樂的日本SL列車世界。

SL冬季濕原號的誕生

北海道東部の釧路是一個有悠久歷史的港口都市，在台灣的基隆和金瓜石進行採礦事業の木村久太郎先生，為了開採釧路的海底煤礦而進行開發，使得釧路變成一個非常有名的煤礦産地。SL冬季濕原號原本是作為運送煤礦的列車，車號C11 171列車本來是陳列在標茶街公園裡展示中，後來在JR北海道苗穂工廠裡經過整修後從2000年開始進行營運。



釧路車站 第三月台

上午11點，釧路車站第三月台。SL冬季濕原號從這裡開始出發，如果SL列車從機務段開出到站後，許多的乘客和搶著觀看列車風采的觀光客都會聚集圍繞在周邊。在機車頭可以看到為了作出發準備的添加煤碳等動作，許多人會搶著和機車頭合影留念。也有為了SL而趕搭早上7點從札幌出發的「超級大空號」(相當於台鐵的新自強號)，即使不在釧路的飯店裡住宿而在當天晚上趕回札幌的也大有人在。

搭乘客車、釧路站開車！

參觀過SL的外觀後開始搭乗，全車採對號座，由5節車廂編組(也有4節編組的時候)而成的座位是採用和普悠瑪號相同的四人對坐附有餐桌的座椅。編組的中央是販售紀念品與點心的販售部，最後面則是由貨物列車的守車改造而成的展望台。車內的暖爐使用的正是釧路所出產的煤碳，車輛的出入口都張貼著和台鐵的CK124締結姊妹車的廣告。上午11點20分列車伴隨著汽笛聲出發了



愛されるSL列車

釧路駅を出発して暫くすると釧路川の鉄橋を通過します。ここは写真撮影の名所で釧路の写真家だけではなく、東京、大阪、時には台湾や香港と多くの写真愛好家が氷点下の世界を行く列車を撮影しに釧路に集まります。氷点下を走るSLは気温や風向き、積雪量などで煙の姿が大きく変化するため、毎年冬にSL撮影の目的だけで釧路を訪れる鉄道愛好家も多く、その人気の高さが分かります。釧路では「SLを見たら手を振ろう」と市民に呼びかけており、多くの人が手を振って迎えてくれます。



釧路湿原を走る

釧路の街を出たらSLはいよいよ釧路湿原の中の線路を走ります。釧路湿原は日本國政府が定めた国立公園になっており、沿線に道路が建設できない場所も多く、「鉄道でしか見ることで見えない風景」の中を走ります。雄大な雪の平原、氷点下で凍った湖、遙か遠くに見える雪山、ここでしか見ることで見えない最高の風景はまるで映画でも見ているかのようです。

食べる楽しみも満点!

旅行の楽しみと言えば、「良い景色を見る事」と同じ位重要なのが「美味しい物を食べる事」だと思います。SL冬季湿原号では売店で便當から軽食まで、地域の特産品を活かした様々な食べ物が用意されており、釧路の魅力「食」で楽しむこともできます。また、販売される食べ物のメニューは毎年変化しており、2回目の乗車でも前回とは違うものを食べる事が出来、食べ物を目当てに毎年冬季湿原号に乗車する旅行愛好家も多いです。

1. 毬藻の湖で有名な阿寒地区の牧場の牛乳を使ったアイスクリーム。寒い冬にアイスクリームは不思議に思えますが、北海道では冬に暖房のある部屋でアイスクリームを食べる習慣があります。北海道人になった気分で食べるアイスクリームの味は格別です。
2. 列車内売店や釧路駅で釧路名産の柳葉魚や北海道の烏賊等の干した魚を売っています。これを客車の石炭暖炉で焼いて食べる事が出来ます。焼いて食べる事で、客車から魚の香りが外に漏れ出して、尾白鷺や狐等の野生動物が列車に近付いて来る事もあります。
3. 釧路駅の駅弁「鱈場蟹便當」。釧路周辺の魚介類で彩られた絶品の便當です。湿原を見ながら海の味を楽しむのも幸福な時間です。
4. SL冬季湿原号限定の布丁。人気が高く、出発後すぐ売り切れます。容器の小瓶は洗って旅の記念に持って帰ることも可能です。



旅の思い出作りも

車内では旅の思い出として車長が巡回時に「乗車証明書」を無料配布(1位1張)しますが、この他にも車内には記念印や記念撮影用の車長制服(小児用)や制帽(成人もOK)、記念撮影枠等も充実しています。ただ座って景色を見るだけで無く、列車内を探検すれば、スタンプを押したり帽子をかぶって写真を撮ったり、いろいろな演出と出会い更に楽しい時間を過ごす事が出来ます。

備受寵愛的SL列車

離開釧路車站不久後會經過釧路川鐵橋，為了等待在零度以下的低溫行駛的SL列車因為氣溫、風向和積雪量等因素造成列車排煙的景象變化，每年冬天都有許多的鐵道迷為了拍攝SL列車而來到釧路，這樣一來就可以理解SL受歡迎的程度。在釧路的市民們只要看見SL列車就會揮手熱情打招呼，因此可以看到許多人和我們揮手打招呼。



穿過釧路溼地

離開釧路之後SL終於進入穿過釧路濕原的路線。釧路溼原是日本政府設立的國家公園，在沿線上有許多地方不能建設道路，只有搭乘鐵路才能觀賞沿途的風景。壯觀的雪地、零度以下冰封的湖泊、遠方覆蓋著靄靄白雪的山，這些簡直像是電影中的壯闊、美麗的畫面只有這裡才能欣賞到。

吃的樂趣也是滿分!

談到旅遊中最讓人開心的事，我想除了可以欣賞美麗的風景之外，同樣重要的就是可以品嚐到美味可口的美食了。在SL冬季湿原號列車上販賣的商品琳瑯滿目，從便當到輕食以及地方特產等，讓遊客們也能用吃的方式感受釧路的魅力。而且列車上陳列販賣的商品每年都會推陳出新加以變化，讓再度搭乘的遊客們能感受到新鮮不同的變化樂趣，因此也有許多的遊客每年都以冬季湿原號列車上的食品為目標。

1. 以毬藻出名的阿寒湖(編著:位於北海道東部的阿寒湖，湖中有一種綠藻會結成圓球狀，超可愛的)地區的牧場牛奶製作的冰淇淋，冬天吃冰淇淋你可能感覺非常不可思議，但是在北海道卻有在開著暖氣的房屋中吃冰淇淋的習慣。讓我們以成為北海道人的心情來品嚐冰淇淋吧!
2. 在列車以及釧路車站上販賣的釧路名產柳葉魚和北海道的賊製作的魚乾，遊客可以使用在列車上的火爐直接烤來吃，就因為這樣的香味飄到車外，常常會吸引白尾鷺和狐狸等野生動物被香味吸引而來到列車旁邊。
3. 釧路車站上所販賣的「鱈場蟹便當」是採用釧路附近所出產的魚類和蟹類烹調而成的超美味便當。一邊欣賞濕原風景一邊享受海的味道是一種超級幸福快樂的時光。
4. 冬季湿原號限定的布丁，極受歡迎通常在列車出發後就馬上銷售一空，布丁的空瓶在洗乾淨後可以帶回家帶作紀念。



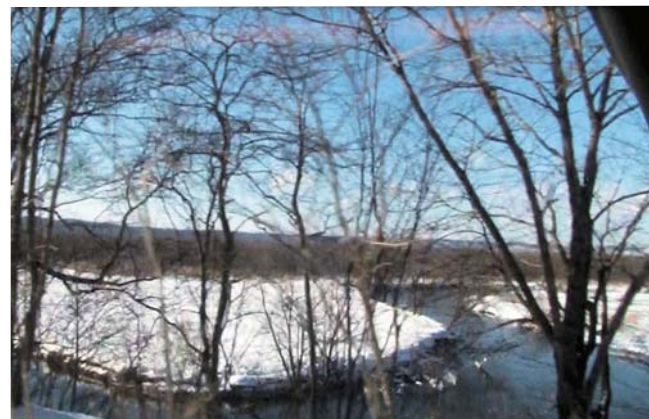
製作旅行的回憶

車長在列車上巡 的時候會 發送一人一張「乘車證」可以留做旅遊紀念，此外在車內還有紀念章和提供車掌制服(小孩)以及車長帽(大人也可以使用)的攝影框可供遊客拍照留念。乘坐本列車的時候不要只是坐著欣賞窗外的風景，您可以起身到列車內各個地方搜尋探險一番，蓋個紀念戳章或是戴上車長的帽子拍照或是其他各種活動，將能更加快樂的度過旅遊的時光。



いよいよクライマックスへ

車窓左手にはS字に蛇行した釧路川が見えます。夏になるとカヌーや釣りなどのレジャーが盛んに行われ、秋になると太平洋から鮭の群れが産卵の為に上流を目指します。釧路川に沿って走った列車はしばらくして塘路駅に到着。旅行社の観光ツアー参加の場合はその多くが塘路駅からバスで各目的地へと向かいます。しかし、SL冬季濕原號最大の魅力は塘路駅を出発して茅沼駅までの区間にあります。



野生動物に会える列車

塘路駅を出発した、SL冬季濕原號。ここからがこの列車の一番面白い場面を迎えます。それは「野生動物探し」です。北海道に来たら是非写真を撮りたい北国の野生動物。乗客はこぞってカメラを準備して鳥や動物を探します。まず塘路駅を出発して暫くすると沿線に数多くの野生の蝦夷鹿が姿を現します。最初は発見が難しいですが、次第に多く見つける事が出来るようになります。大きな樹木には尾白鷺や大鷹が体を休めています。動物を探してはカメラで狙う。気分はまるで動物写真家です。次の茅沼駅では丹頂鶴が飛来します。現在は呼招駅である茅沼駅は昔、駅員が常駐していた時代、站长が餌を撒き丹頂鶴を呼び寄せたことが始まりです。現在は近くの旅館主により餌巻きが行われています。縁起の良い鳥に会って満足の旅は続きます。


列車は終点到着。旅はまだ続く

釧路駅を出発してから1時間20分、列車は終点の標茶駅に到着します。標茶駅前からはSL到着に合わせて運行するJR北海道の観光バス「Twinkleバス」が摩周湖や硫黄山等の観光地を巡りながら川湯温泉・知床等の飯店へと直接送迎して貰えます。また、標茶駅から1時間後の釧路行のSLに乗れば、釧路駅で札幌行きの特急「超級大空」に接続しており、夜に札幌に到着することも可能です。SLの旅が終わっても、次の旅への連携が様々な構築されています。誌面でご紹介したSLの旅、次回は是非釧路で体験してみてください！




SL冬季濕原號 +More

SL冬季濕原號は標茶→釧路の帰路が一番面白い

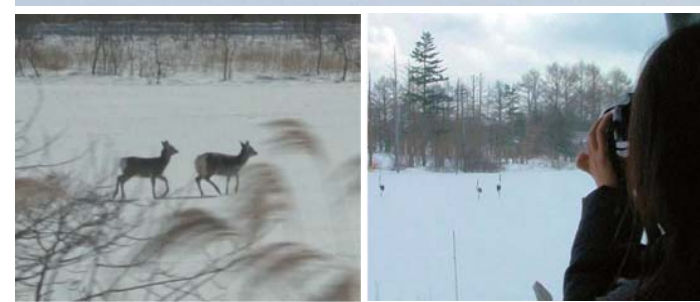
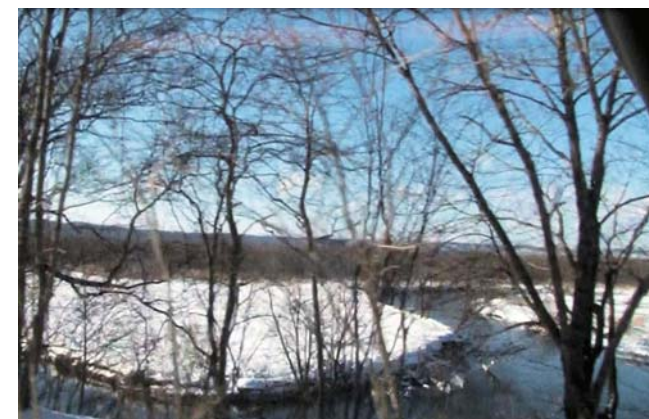


個人旅行でSL冬季濕原號に乗車するなら標茶から釧路に向かう帰路をお勧めします。標茶発は釧路発より比較的乗客が少なく、売店や展望室が混雑しません。また、機関車が後ろ向きに連結されるため、展望室からは機関車の顔が目の前に、生の汽笛や走行音、時に湯気や温水、煤が飛んで来る「生きた蒸気機関車」を体験できるのは日本でもこの列車だけです。



越来越精彩

從左邊車窗可以看見S形蜿蜒的釧路川。一到夏天的話這裡盛行搭乘皮艇和釣魚等休閒娛樂，到秋天的時候，從太平洋來的鮭魚群為了產卵奮力的往上游。沿著釧路川行駛的列車不久就到達塘路站。參加旅行社的觀光旅行通常是從塘路站乘巴士前往目的地。可是SL冬季濕原號最大的魅力卻是從塘路站出發到茅沼站的路程。



能遇見野生動物の列車

從塘路站出發的冬季濕原號列車，將會在這裡遇見最有趣的畫面，那就是「搜尋野生動物」。遊客來到北海道的話最想要拍攝的莫過於北國的野生動物，因此都準備好相機來尋找鳥類和動物。首先從塘路站出發不久，就會在軌道沿線上發現野生的蝦夷鹿，起先數量很少很難讓人發現，不過漸漸地變得越來越容易可以找到它們了，而在大樹上也會有白尾鷺和老鷹在休息。使用相機搜尋著野生動物，那種感覺就好像自己已經是一位專業的動物攝影師一般。在下一個茅沼車站可以發現著名的丹頂鶴飛過來，現在已經變成招呼站的茅沼車站，在過去有站務人員常駐的時代，站长都會灑下飼料餵食丹頂鶴，而現在都是由附近的旅館老闆來繼續餵食牠們。帶著與這些丹頂鶴相遇的良好緣分繼續進行我們的旅程吧！

列車到達終點。旅程尚未結束

從釧路車站出發後經過1小時20分，列車抵達終點站-標茶站，在標茶車站有配合SL列車營運的JR北海道觀光巴士「Twinkle」，搭乘此觀光巴士能到達摩周湖和硫黃山等風景點觀光，也提供到川湯温泉、知床等地的飯店來回接送。此外，如果在標茶車站搭乘一小時後出發前往釧路站的SL列車，在釧路車站接著就可以趕上前往札幌的特快列車「超級大空」號，在晚上就可以抵達札幌。SL的旅程雖然結束了，但是也聯繫著接下來各種各樣的行程。本次介紹的SL旅行，下次無論如何請都要來釧路體驗一番。



SL冬季濕原號 +More

SL冬季濕原號最有趣的是從標茶站往釧路車站



如果是自助旅行的話，建議搭乘從標茶站往釧路車站的回程，因為從標茶站出發的列車乘客比較少、車上的販賣部比較不會擁擠混亂。此外，因為回程時機車頭改由列車後面拖行，從展望室往前看機車頭就在眼前，汽笛發出的聲響及列車行駛時發出的聲音，加上不時飛來的熱氣、溫水以及煤炭飛到眼前，都能讓人感受這是一台「活的蒸汽火車」，如此的令人感動在日本也只有這部SL列車而已。

